（注意）

1. 各面共通関係

数字は算用数字を、単位はメートル法を用いてください。

1. 第一面関係

※印のある欄は記入しないでください。

1. 第二面関係
   1. 建築主が２以上のときは、１欄は代表となる建築主について記入し、別紙に他の建築主についてそれぞれ必要な事項を記入して添えてください。
   2. 建築主からの委任を受けて申請を行う者がいる場合においては、２欄に記入してください。
   3. ２欄、３欄及び５欄は、代理者、設計者又は工事監理者が建築士事務所に属しているときは、その名称を書き、建築士事務所に属していないときは、所在地はそれぞれ代理者、設計者又は工事監理者の住所を書いてください。
   4. ３欄の｢ト｣は、作成した又は建築士法第２０条の２第３項若しくは第２０条の３第３項の表示をした図書について記入してください。
   5. ３欄、４欄及び５欄は、それぞれ代表となる設計者、建築設備の設計に関し意見を聴いた者及び工事監理者並びに申請に係る建築物に係る他のすべての設計者、建築設備の設計に関し意見を聴いた者及び工事監理者について記入してください。３欄の設計者のうち、構造設計一級建築士又は設備設計一級建築士である旨の表示をした者がいる場合は、該当するチェックボックスに｢レ｣マークを入れてください。記入欄が不足する場合には、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
   6. ４欄は、建築士法第２０条第５項に規定する場合（設計に係る場合に限る。）に、同項に定める資格を有する者について記入し、所在地は、その者が勤務しているときは勤務先の所在地を、勤務していないときはその者の住所を、登録番号は建築士法施行規則第１７条の３５第１項の規定による登録を受けている場合の当該登録番号を書いてください。
   7. ５欄及び６欄は、それぞれ工事監理者又は工事施工者が未定のときは、後で定まつてから工事着手前に届け出てください。
   8. ６欄は、工事施工者が２以上のときは、代表となる工事施工者について記入し、別紙に他の工事施工者について棟別にそれぞれ必要な事項を記入して添えてください。
   9. ７欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れ、申請済の場合には、申請をした都道府県名又は指定構造計算適合性判定機関の名称及び事務所の所在地を記入してください。未申請の場合には、申請する予定の都道府県名又は指定構造計算適合性判定機関の名称及び事務所の所在地を記入し、申請をした後に、遅滞なく、申請をした旨（申請先を変更した場合においては、申請をした都道府県名又は指定構造計算適合性判定機関の名称及び事務所の所在地を含む。）を届け出てください。なお、所在地については、○○県○○市、郡○○町、村、程度で結構です。
   10. ８欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れ、提出済の場合には、提出をした所管行政庁名又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関の名称及び事務所の所在地を記入してください。未提出の場合には、提出する予定の所管行政庁名又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関の名称及び事務所の所在地を記入し、提出をした後に、遅滞なく、提出をした旨（提出先を変更した場合においては、提出をした所管行政庁名又は登録建築物エネルギー消費性能判定機関の名称及び事務所の所在地を含む。）を届け出てください。なお、所在地については、○○県○○市、郡○○町、村、程度で結構です。

また、提出不要の場合には、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律施行令第4条第1項に規定する床面積を記入する等、提出が不要である理由を記入してください。特に必要がある場合には、各階平面図等の図書によりその根拠を明らかにしてください。なお、延べ面積が300平方メートル未満である場合、建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律第11条第1項の規定による非住宅部分を有さない場合その他の提出が不要であることが明らかな場合は、記入する必要はありません。

* 1. 建築物の名称又は工事名が定まつているときは、９欄に記入してください。

1. 第三面関係
   1. 住居表示が定まつているときは、２欄に記入してください。
   2. ３欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。ただし、建築物の敷地が都市計画区域、準都市計画区域又はこれらの区域以外の区域のうち２以上の区域にわたる場合においては、当該敷地の過半の属する区域について記入してください。なお、当該敷地が３の区域にわたる場合で、かつ、当該敷地の過半の属する区域がない場合においては、都市計画区域又は準都市計画区域のうち、当該敷地の属する面積が大きい区域について記入してください。
   3. ４欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。なお、建築物の敷地が防火地域、準防火地域又は指定のない区域のうち２以上の地域又は区域にわたるときは、それぞれの地域又は区域について記入してください。
   4. ５欄は、建築物の敷地が存する３欄及び４欄に掲げる区域及び地域以外の区域、地域、地区又は街区を記入してください。なお、建築物の敷地が２以上の区域、地域、地区又は街区にわたる場合は、それぞれの区域、地域、地区又は街区を記入してください。
   5. ６欄は、建築物の敷地が２メートル以上接している道路のうち最も幅員の大きなものについて記入してください。
   6. ７欄の「イ」(1)は、建築物の敷地が、２以上の用途地域、高層住居誘導地区、居住環境向上用途誘導地区若しくは特定用途誘導地区、建築基準法第５２条第１項第１号から第８号までに規定する容積率の異なる地域、地区若しくは区域又は同法第５３条第１項第１号から第６号までに規定する建蔽率若しくは高層住居誘導地区に関する都市計画において定められた建築物の建蔽率の最高限度の異なる地域、地区若しくは区域（以下「用途地域が異なる地域等」という。）にわたる場合においては、用途地域が異なる地域等ごとに、それぞれの用途地域が異なる地域等に対応する敷地の面積を記入してください。

「イ」(2)は、同法第５２条第１２項の規定を適用する場合において、同条第１３項の規定に基づき、「イ」(1)で記入した敷地面積に対応する敷地の部分について、建築物の敷地のうち前面道路と壁面線又は壁面の位置の制限として定められた限度の線との間の部分を除いた敷地の面積を記入してください。

* 1. ７欄の「ロ」、「ハ」及び「ニ」は、「イ」に記入した敷地面積に対応する敷地の部分について、それぞれ記入してください。
  2. ７欄の「ホ」(1)は、「イ」(1)の合計とし、「ホ」(2)は、「イ」(2)の合計とします。
  3. 建築物の敷地が、建築基準法第５２条第７項若しくは第９項に該当する場合又は同条第８項若しくは第１２項の規定が適用される場合においては、７欄の「ヘ」に、同条第７項若しくは第９項の規定に基づき定められる当該建築物の容積率又は同条第８項若しくは第１２項の規定が適用される場合における当該建築物の容積率を記入してください。
  4. 建築物の敷地について、建築基準法第５７条の２第４項の規定により現に特例容積率の限度が公告されているときは、７欄の「チ」にその旨及び当該特例容積率の限度を記入してください。
  5. 建築物の敷地が建築基準法第５３条第２項若しくは同法第５７条の５第２項に該当する場合又は建築物が同法第５３条第３項、第５項若しくは第６項に該当する場合においては、７欄の「ト」に、同条第２項、第３項、第５項又は第６項の規定に基づき定められる当該建築物の建蔽率を記入してください。
  6. ８欄は、別紙の表の用途の区分に従い対応する記号を記入した上で、主要用途をできるだけ具体的に記入してください。
  7. ９欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
  8. 都市計画区域内、準都市計画区域内及び建築基準法第６８条の９第１項の規定に基づく条例により建築物の容積率の最高限度が定められた区域内においては、１１欄の「ロ」に建築物の地階でその天井が地盤面からの高さ１メートル以下にあるものの住宅又は老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの用途に供する部分、「ハ」にエレベーターの昇降路の部分、「ニ」に共同住宅又は老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの共用の廊下又は階段の用に供する部分、「ホ」に自動車車庫その他の専ら自動車又は自転車の停留又は駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分、「ヘ」に専ら防災のために設ける備蓄倉庫の用途に供する部分、「ト」に蓄電池（床に据え付けるものに限る。）を設ける部分、「チ」に自家発電設備を設ける部分、「リ」に貯水槽を設ける部分、「ヌ」に宅配ボックス（配達された物品（荷受人が不在その他の事由により受け取ることができないものに限る。）の一時保管のための荷受箱をいう。）を設ける部分、「ル」に住宅の用途に供する部分、「ヲ」に老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの用途に供する部分のそれぞれの床面積を記入してください。
  9. 住宅又は老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものについては、１１欄の「ロ」の床面積は、その地階の住宅又は老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの用途に供する部分の床面積から、その地階のエレベーターの昇降路の部分又は共同住宅若しくは老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの共用の廊下若しくは階段の用に供する部分の床面積を除いた面積とします。
  10. １１欄の「ワ」の延べ面積及び「カ」の容積率の算定の基礎となる延べ面積は、各階の床面積の合計から「ロ」に記入した床面積（この面積が敷地内の建築物の住宅及び老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの用途に供する部分（エレベーターの昇降路の部分又は共同住宅若しくは老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの共用の廊下若しくは階段の用に供する部分を除く。）の床面積の合計の３分の１を超える場合においては、敷地内の建築物の住宅及び老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの用途に供する部分（エレベーターの昇降路の部分又は共同住宅若しくは老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するものの共用の廊下若しくは階段の用に供する部分を除く。）の床面積の合計の３分の１の面積）、「ハ」及び「ニ」に記入した床面積並びに「ホ」から「ヌ」までに記入した床面積（これらの面積が、次の(1)から(6)までに掲げる建築物の部分の区分に応じ、敷地内の建築物の各階の床面積の合計にそれぞれ(1)から(6)までに定める割合を乗じて得た面積を超える場合においては、敷地内の建築物の各階の床面積の合計にそれぞれ(1)から(6)までに定める割合を乗じて得た面積）を除いた面積とします。また、建築基準法第５２条第１２項の規定を適用する場合においては、「カ」の容積率の算定の基礎となる敷地面積は、７欄「ホ」(2)によることとします。

(1)　自動車車庫等の部分　５分の１

(2)　備蓄倉庫の部分　５０分の１

(3)　蓄電池の設置部分　５０分の１

(4)　自家発電設備の設置部分　１００分の１

(5)　貯水槽の設置部分　１００分の１

(6)　宅配ボックスの設置部分　１００分の１

* 1. １２欄の建築物の数は、延べ面積が１０平方メートルを超えるものについて記入してください。
  2. １３欄の「イ」及び「ロ」は、申請に係る建築物又は同一敷地内の他の建築物がそれぞれ２以上ある場合においては、最大のものを記入してください。
  3. １３欄の「ハ」は、敷地内の建築物の主たる構造について記入してください。
  4. １３欄の「ニ」は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

㉑　１３欄の「ホ」は、建築基準法第５６条第７項第１号に掲げる規定が適用されない建築物については「道路高さ制限不適用」、同項第２号に掲げる規定が適用されない建築物については「隣地高さ制限不適用」、同項第３号に掲げる規定が適用されない建築物については「北側高さ制限不適用」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

㉒　建築物及びその敷地に関して許可・認定等を受けた場合には、根拠となる法令及びその条項、当該許可・認定等の番号並びに許可・認定等を受けた日付について１４欄又は別紙に記載して添えてください。

㉓　７欄の「ハ」、「ニ」、「ヘ」及び「ト」、１０欄の「ロ」並びに１１欄の｢カ｣は、百分率を用いてください。

㉔　建築基準法第８６条の７、同法第８６条の８又は同法第８７条の２の規定の適用を受ける場合においては、工事の完了後においても引き続き同法第３条第２項（同法第８６条の９第１項において準用する場合を含む。）の適用を受けない規定並びに当該規定に適合しないこととなった時期及び理由を１８欄又は別紙に記載して添えてください。

㉕　ここに書き表せない事項で特に確認を受けようとする事項は、１８欄又は別紙に記載して添えてください。

㉖　計画の変更申請の際は、１９欄に第三面に係る部分の変更の概要について記入してください。

1. 第四面関係
   1. この書類は、申請建築物ごと（延べ面積が１０平方メートル以内のものを除く。以下同じ。）に作成してください。
   2. この書類に記載する事項のうち、１０欄から１５欄までの事項については、別紙に明示して添付すれば記載する必要はありません。
   3. １欄は、建築物の数が１のときは「１」と記入し、建築物の数が２以上のときは、申請建築物ごとに通し番号を付し、その番号を記入してください。
   4. ２欄は、別紙の表の用途の区分に従い対応する記号を記入した上で、用途をできるだけ具体的に書いてください。
   5. ３欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
   6. ５欄は、「耐火構造」、「建築基準法施行令第１０８条の３第１項第１号イ及びロに掲げる基準に適合する構造」、「準耐火構造」、「準耐火構造と同等の準耐火性能を有する構造（ロ-１）」（建築基準法施行令第１０９条の３第１号に掲げる基準に適合する主要構造部の構造をいう。）又は「準耐火構造と同等の準耐火性能を有する構造（ロ-２）」（同条第２号に掲げる基準に適合する主要構造部の構造をいう。）のうち該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。いずれにも該当しない場合は「その他」に「レ」マークを入れてください。
   7. ６欄は、「建築基準法施行令第１０９条の５第１号に掲げる基準に適合する構造」、「建築基準法第２１条第１項ただし書に該当する建築物」、「建築基準法施行令第１１０条第１号に掲げる基準に適合する構造」又は「その他」（上記のいずれにも該当しない建築物で、建築基準法第21条又は第27条の規定の適用を受けるもの）のうち該当するチェックボックス全てに「レ」マークを入れてください。また、「建築基準法施行令第１０９条の５第１号に掲げる基準に適合する構造」又は「建築基準法施行令第１１０条第１号に掲げる基準に適合する構造」に該当する場合においては、５欄の「準耐火構造」のチェックボックスにも「レ」マークを入れてください。建築基準法第21条又は第27条の規定の適用を受けない場合は「建築基準法第21条又は第27条の規定の適用を受けない」に「レ」マークを入れてください。
   8. ７欄は、「耐火建築物」、「延焼防止建築物」（建築基準法施行令第１３６条の２第１号ロに掲げる基準に適合する建築物をいう。）、「準耐火建築物」、「準延焼防止建築物」（同条第２号ロに掲げる基準に適合する建築物をいう。）又は「その他」（上記のいずれにも該当しない建築物で、建築基準法第61条の規定の適用を受けるもの）のうち該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。建築基準法第61条の規定の適用を受けない場合は「建築基準法第61条の規定の適用を受けない」に「レ」マークを入れてください。
   9. ８欄の「ハ」は、建築基準法施行令第２条第１項第８号により階数に算入されない建築物の部分のうち昇降機塔、装飾塔、物見塔その他これらに類する建築物の屋上部分の階の数を記入してください。
   10. ８欄の「ニ」は、建築基準法施行令第２条第１項第８号により階数に算入されない建築物の部分のうち地階の倉庫、機械室その他これらに類する建築物の部分の階の数を記入してください。
   11. １０欄は、別紙にその概要を記載して添えてください。ただし、当該建築設備が特定の建築基準関係規定に適合していることを証する書面を添える場合には、当該建築基準関係規定に係る内容を概要として記載する必要はありません。
   12. １１欄の「イ」及び「ロ」は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
   13. １１欄の「ハ」は、建築基準法第６条の４第１項の規定による確認の特例の適用がある場合に、建築基準法施行令第１０条各号に掲げる建築物のうち、該当するものの号の数字を記入してください。
   14. １１欄の「ニ」は、建築基準法施行令第１０条第１号又は第２号に掲げる建築物に該当する場合にのみ記入してください。また、１１欄の「ホ」は、同条第１号に掲げる建築物に該当する場合に、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
   15. １１欄の「ヘ」は、建築基準法第６８条の２０第１項に掲げる認証型式部材等に該当する場合にのみ記入してください。当該認証番号を記入すれば、第１０条の５の４第１号に該当する認証型式部材等の場合にあつては１０欄の概要、１１欄の「ニ」（屎尿浄化槽又は合併処理浄化槽並びに給水タンク又は貯水タンクで屋上又は屋内以外にあるものに係るものを除く。）並びに１３欄から１６欄まで及び第五面の３欄から６欄までの事項について、同条第２号に該当する認証型式部材等の場合にあつては１１欄の「ニ」（当該認証型式部材等に係るものに限る。）並びに１３欄から１６欄まで及び第五面の３欄から６欄までの事項について、同条第３号に該当する認証型式部材等の場合にあつては１０欄の概要及び１１欄の「ニ」（当該認証型式部材等に係るものに限る。）については記入する必要はありません。
   16. １２欄の「イ」は、最上階から順に記入してください。記入欄が不足する場合には、別紙に必要な事項を記入し添えてください。
   17. １６欄は、最下階の居室の床が木造である場合に記入してください。
   18. １７欄は、「水洗」、「くみ取り」又は「くみ取り（改良）」のうち該当するものを記入してください。
   19. ここに書き表せない事項で特に確認を受けようとする事項は、１８欄又は別紙に記載して添えてください。
   20. 申請建築物が高床式住宅（豪雪地において積雪対策のため通常より床を高くした住宅をいう。）である場合には、床面積の算定において床下部分の面積を除くものとし、１９欄に、高床式住宅である旨及び床下部分の面積を記入してください。

㉑　建築基準法施行令第121条の2の適用を受ける直通階段で屋外に設けるものが木造であ　　　る場合には、19欄に、その旨を記入してください。

㉒　計画の変更申請の際は、１９欄に第四面に係る部分の変更の概要について記入してください。

1. 第五面関係
   1. この書類に記載すべき事項を別紙に明示して添付すれば、この書類を別途提出する必要はありません。
   2. この書類は、各申請建築物の階ごとに作成してください。ただし、木造の場合は３欄から８欄まで、木造以外の場合は５欄から８欄までの記載内容が同じときは、２欄に同じ記載内容となる階を列記し、併せて１枚とすることができます。
   3. １欄は、第二号様式の第四面の１欄に記入した番号と同じ番号を記入してください。
   4. ３欄及び４欄は、木造の場合にのみ記入してください。
   5. ６欄の「ロ」は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
   6. ７欄は、別紙の表の用途の区分に従い対応する記号を記入した上で、用途をできるだけ具体的に書き、それぞれの用途に供する部分の床面積を記入してください。
   7. ここに書き表せない事項で特に確認を受けようとする事項は、８欄又は別紙に記載して添えてください。
   8. 計画の変更申請の際は、９欄に第五面に係る部分の変更の概要について記入してください。
2. 第六面関係
   1. この書類は、申請に係る建築物（建築物の二以上の部分がエキスパンションジョイントその他の相互に応力を伝えない構造方法のみで接している場合においては当該建築物の部分。以下同じ。）ごとに作成してください。
   2. １欄は、建築物の数が１のときは「１」と記入し、建築物の数が２以上のときは、申請建築物ごとに通し番号を付し、その番号を記入してください。
   3. ２欄及び３欄の「イ」から「ハ」までは、申請に係る建築物について、それぞれ記入してください。ただし、建築物の数が１のときは記入する必要はありません。
   4. ３欄の「ニ」は、申請に係る建築物の主たる構造について記入してください。ただし、建築物の数が１のときは記入する必要はありません。
   5. ４欄、５欄及び６欄は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
   6. ６欄の「イ」は、構造計算に用いたプログラムが特定できるよう記載してください。
   7. ７欄は、建築基準法施行令第１３７条の２各号に定める基準のうち、該当する基準の号の数字及び「イ」又は「ロ」の別を記入してください。
   8. 計画の変更申請の際は、８欄に第六面に係る部分の変更の概要について記入してください。